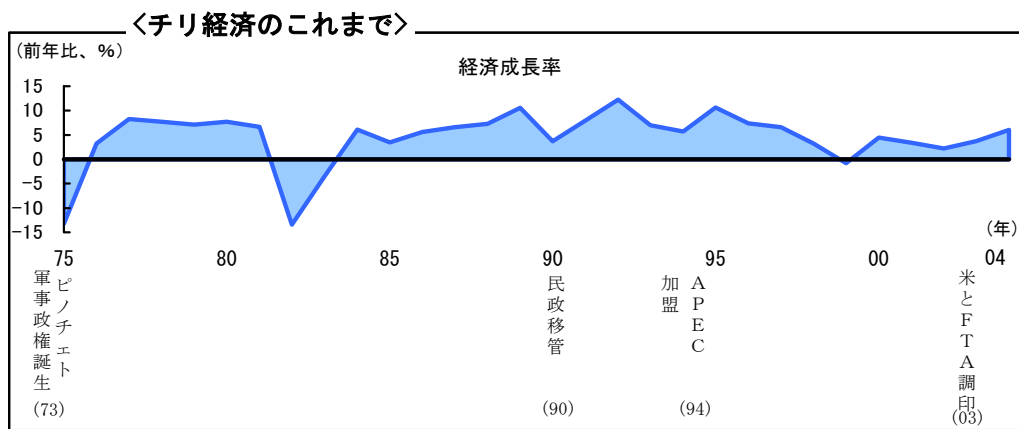


## &lt;2004年&gt;

人口	1,596 万人	財政会計年度	1月～12月
	(日本の約1/8)	為替制度	変動相場制
一人当たりGDP	5,899 ドル	通貨	ペソ
産業構造(GDP構成比)	1次産業 5.8%		1米ドル=609ペソ
	2次産業 43.2%	面積 75.7万km <sup>2</sup>	(日本の約2倍)
	3次産業 51.0%		



## チリの主要経済指標

		93～03年	2004年	2005年		2006年		民間機関
				中央銀行	IMF	中央政府	IMF	
実質GDP	前年比%	4.7	6.1	6.0	5.9	5.5	5.8	実質GDP
鉱工業生産	同上	2.4	2.7	—	—	—	—	2005年
消費者物価	同上	6.4	1.1	4.2	2.9	3.1	3.3	平均 6.1
失業率	%	7.7	8.5	—	—	—	—	最大 6.5
経常収支	億米ドル	—	▲5.9	—	—	—	—	最小 5.9
(GDP比)	%	—	(▲0.8)	(▲2.2)	(0.3)	—	(▲0.7)	2006年
財政収支	億米ドル	—	6.0	—	—	—	—	平均 5.3
(GDP比、年度)	%	—	(0.8)	—	—	—	—	最大 6.0
政府債務残高	億米ドル	—	—	—	—	—	—	最小 4.7
(GDP比、年度末)	%	—	—	—	—	—	—	(5社)

(備考) チリ中央銀行、チリ国家統計局、チリ大蔵省、IMF“International Financial Statistics”。見通しの中央銀行“Economic Expectation Survey”(2005年9月)、IMFは“World Economic Outlook”(2005年9月)による。

## &lt;2005～2006年の経済&gt;

2005年前半の経済成長率は、投資・消費など内需が好調だったことから、前年同期比6.3%と堅調な経済成長となった。雇用の回復にやや遅れが見られるものの、銅など一次産品価格の上昇を背景とした輸出増や、内需の堅調さが持続するとの見通しから、05年全体では、6%程度の経済成長が見込まれている。

2006年は、引き続き5～6%程度の経済成長が見込まれている(中央銀行見通し5.5%、IMF見通し5.8%、民間機関5社平均見通し5.3%)。下方リスクとしては、原油価格上昇に伴う消費者物価の上昇、依然高水準にある失業率が懸念されている。